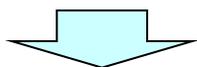


丹波市（近畿圏ブロック）

【計画期間 21年3月～27年2月】※ 期間延長適用後

- ・中世～江戸：柏原八幡神社の門前町・織田家縁の城下町として発展
- ・明治～：国・県の機関や病院が集積する兵庫丹波地域の中心地

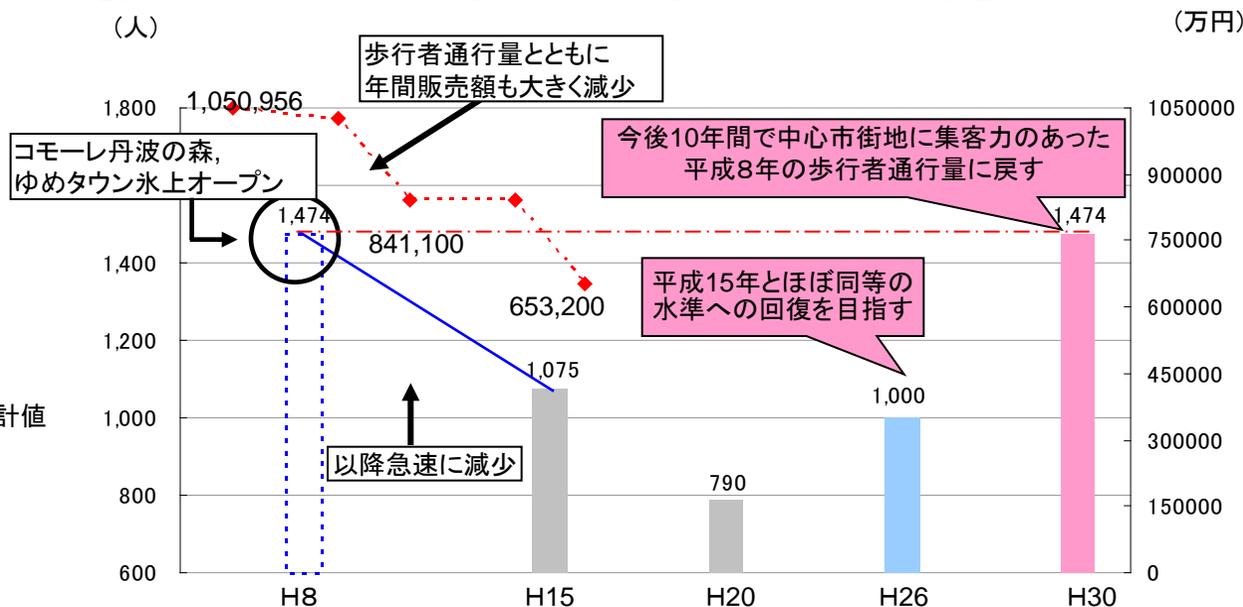
- 柏原八幡神社、柏原藩陣屋跡、近代洋風建築など、歴史・文化的資源が数多く点在
- H16年の6町合併による都市機能の一部移転、郊外への相次ぐ大規模店舗の進出などによる衰退傾向の顕在化
- まちづくり会社中心のテナントミックス事業や住民協力による地域医療の再生等、自律的なまちづくりの動きがみられる。



- 歩行者通行量の減少
H8推計※：906人
→H20：467人（▲48.5%）
※H16とH20のデータを基に算出した推計値
- 中心市街地内の人口の減少
H2：2,233人
→H19：1,993人（▲10.8%）

目標	指標	現況値	目標値(H26)
ストック活用による 集客・交流機能の強化	歩行者・自転車通行量	790人/日 (H20)	1,000人/日
官民協働による 街なか居住の推進	中心市街地の人口	1,993人 (H19)	2,000人

【歩行者・自転車通行量[平日・6地点]の推移と数値目標】



■まちの玄関口の駅前再開発、町家や丹波食材を活用した商業施設の充実など、地域資源を徹底して見直すことにより、地域住民が地域を誇り、集えるまちなかを目指す。

⇒主要事業：①JR柏原駅前再開発事業、②町家活用(テナントミックス)事業③大手会館活用事業など

■官民協働の住宅供給や、住民参加の地域医療再生により、安心して住み続けられるまちなかを目指す。

⇒主要事業：④市有地活用高齢者賃貸住宅整備、⑤法務局跡地活用住宅整備、⑥地域医療再生など

丹波市中心市街地活性化基本計画の事業概要

歴史・食などの地域資源の見直しによる市民が集えるまちなか

○JR柏原駅前再開発事業(①)

駅前の未利用地を再開発し住居・商業施設を一体的に整備。鉄道と国道に面したまちの玄関口である駅前地域整備によりまちなかへの導入機能を高める。



○テナントミックス事業 (屋敷エリア)(②)

まちづくり会社を中心となり、鹿肉や丹波大納言小豆などの食材を使ったレストラン創作料理店を展開。新たに、町家や武家屋敷を活用した地産地消型の個店を整備し、食を核としたまちの活性化を図る。



○空店舗活用事業

駅前から続くメインストリートの空店舗を改修。丹波の食材を活用した飲食店等を整備。

○大手会館活用事業(③)

明治18年に高等小学校の校舎として建てられた歴史的建造物を丹波の偉人を紹介する「(仮称)ふるさと人物館」として整備



○近代洋風建築の旧役場活用

まちのシンボルである旧役場を活用した観光情報拠点を整備。観光用駐車場の整備、ハイキングコース設定、ボランティアガイド育成、まちなみ形成(建物修景助成制度)の拡充などによりまちなか観光を促進する。



安心して住み続けられるまちなか

- 公有地活用による住宅整備
- JR柏原駅前再開発(住居部分)(①)
再開発による住宅整備[17戸]
- 市有地活用高齢者住宅(④)
公有地を活用した高齢者賃貸住宅の整備[20戸]
- 法務局跡地活用住宅整備(⑤)
法務局跡地に公益団体事務所(まちなか集中化事業)と住宅の複合施設を整備
- 人口流出の抑制
- 地域医療再生(⑥)
夜間休日診療所の設置や地域医療市民講座への補助などにより、官民一体となって地域医療体制の再構築を図る。



○民間団体まちなか集中化事業

法務局跡地に整備した複合施設等に国際交流団体・シルバー人材センターなどの公益団体事務所を集中化させ、市民活動の拠点として整備

